

④ リユースの推進（ファッション含む）

＜事例紹介 1＞

「市民がリユースを選択しやすい環境づくり」

横浜市

資源循環局資源循環推進課

担当係長 木村 充

CITY OF YOKOHAMA

第2回 資源循環自治体フォーラム
 第三部 個別テーマセッション「(4)リユースの推進(ファッション含む)」

市民がリユースを選択しやすい環境づくり

2026.08.06

横浜市 資源循環局 資源循環推進課 木村



横浜市

● 廃棄物施策の変遷とリユースの取組

ヨコハマはG30

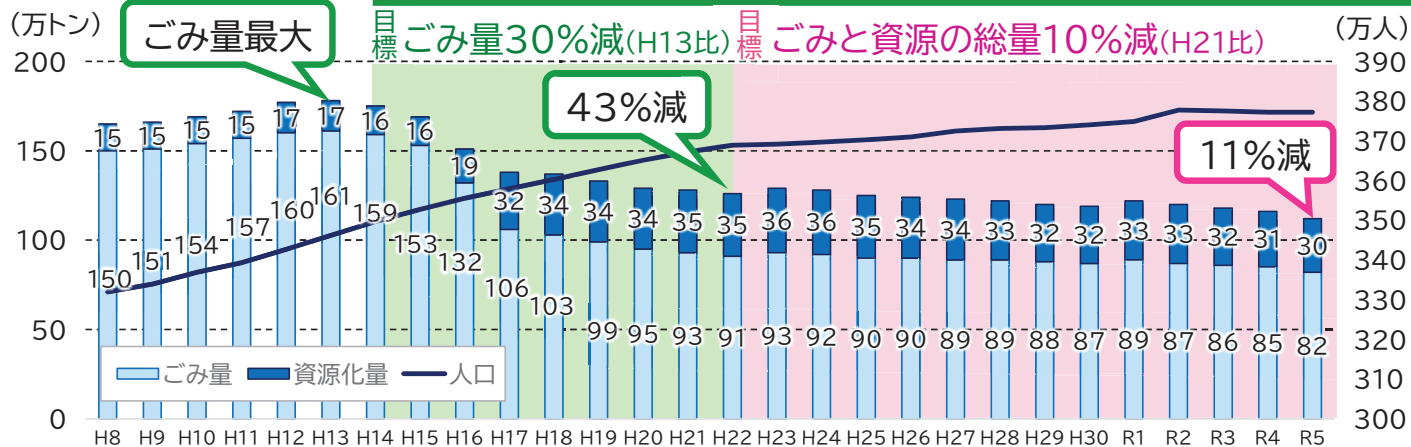
G30 のその先へ ヨコハマ3R夢!



ごみ減量

3R(特にリデュース)

脱炭素・CE

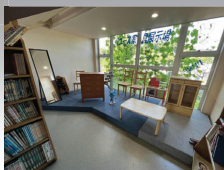


H3 リサイクルプラザ
事業開始



H17 分別ルール変更
(5分別↓10分別)

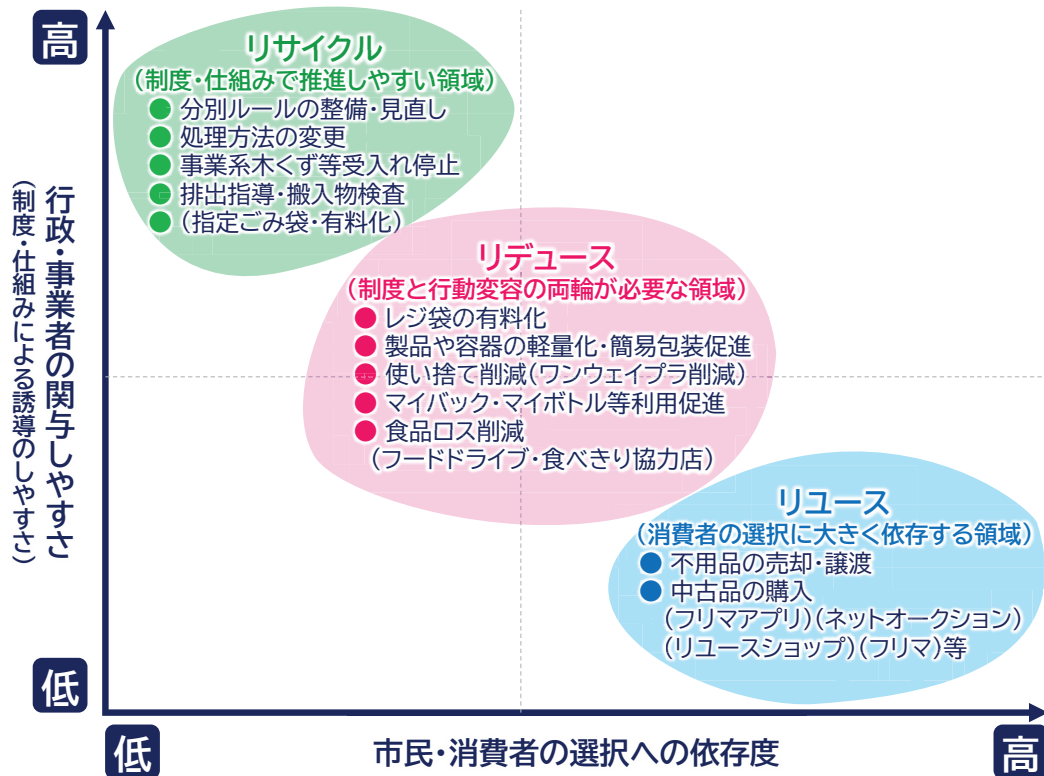
H23 粗大ごみリユース
事業開始



R5 リユース
連携協定締結

R6 分別ルール変更
(プラスチック)

● 資源循環施策の関与領域イメージ



POINT
リユースは市民一人ひとりの選択により成立する。
市民に近い立場の自治体には、リユースを選択しやすい環境づくりが求められる。
①リユースの手間や負担を減らす ②リユースの選択肢を見える化する ③市民と事業者の接点をつくる ④リユースの行動のきっかけをつくる
・価格 ・環境意識 ・手間(運搬・手続き・時間等) ・不安(劣化・トラブル等) ・情報・機会不足

2

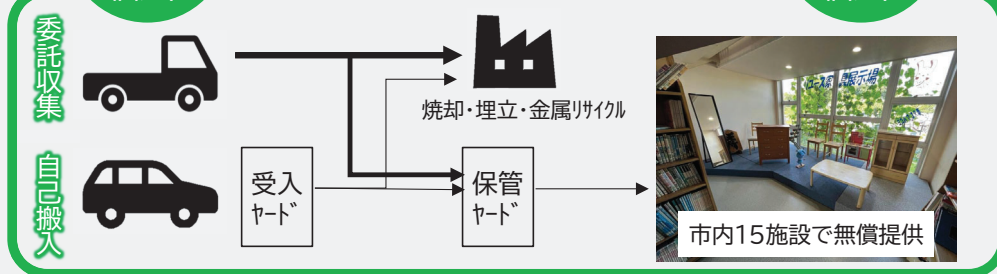
● 既存リユース事業

リユース家具

- ・粗大ごみからリユース品を抜き取り、無償で提供

粗大ごみ
276万
個/年

リユース
1,093
個/年



古布のリユース

- ・自治会・町内会等と事業者が契約して回収しリユース・リサイクル(市は奨励金交付)
- ・区役所やスポーツセンター・図書館・地区センター等市内約100拠点で回収しリユース・リサイクル

資源集団回収



リユース・リサイクル

リユース・リサイクル
7,479
t/年

拠点回収



リユース・リサイクル

リユース・リサイクル
442
t/年

POINT

- 粗大ごみの総量に対し、リユースの割合が低い。
- リユースの市場規模拡大に直接つながるとは言い難い。
- 排出後のリユースであり市民自らがリユースを選択した結果とはいえない。

3

● 更なるリユース促進に向けて①

分別冊子



市民に配布するごみ出し冊子の
はじめに、リユースやシェアなど、
”できる工夫をした上で”
最後に”分別排出”を位置づけ

日々の生活から工夫を

ものを「長く使うこと」や「他の人にゆずること」によって不用品を減らしたり、「ごみになるようなものを受け取らないこと」、「環境に配慮した製品を選ぶこと」など、ものを購入する段階からできる工夫も、たくさんあります。また、スーパーの店頭で食品トレー回収のように「資源物を回収機に出すこと」によってリサイクルをしやすいなど、日々の生活でできる工夫もあります。

できる工夫をした上で

正しく分別して集積場に出す

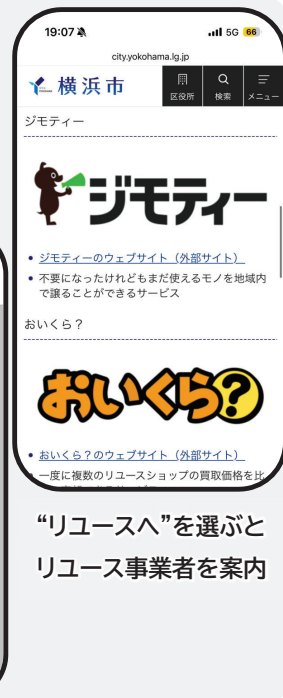
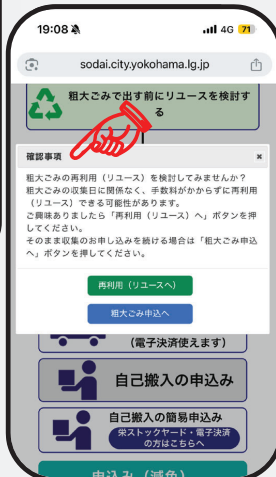
本来に必要なものを考える 修理やリメイクをして長く使う 店頭回収など※拠点に持ち込む※P2コラム参照 フリマや人にゆずり再利用 一時的な使用ならレンタルやシェア	環境に配慮した製品を選ぶ ✓ 詰替え商品、簡易包装・リターナブル容器 ✓ 再生材、再生可能な素材の製品 ✓ 耐久性の高い長く使える製品 など	余計なものはもらわない ✓ レジ袋 ✓ 使い捨てカトラリー など
---	--	---

粗大ごみ申込画面



手続きフロー図の
1stステップに
リユースを位置づけ

「申込み」を押下後
再びリユース誘導
ポップ画面表示



“リユース”を選ぶと
リユース事業者を案内

● 更なるリユース促進に向けて②

自治体-事業者連携



事業者と連携してリユースを促進する
広報や企画立案に向けた協定を締結

R5. 2～ おいくら
(マーケットエンタープライズ)

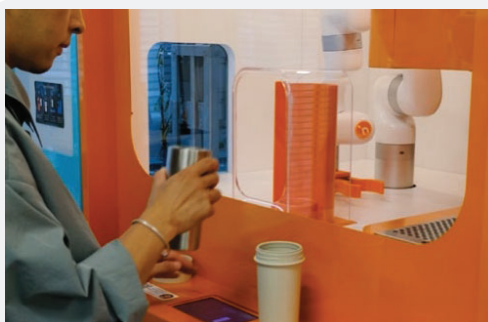
R5. 2～ ジモティー

R6. 9～ IKEA

※包括連携協定(リユースは取組の一部(R8.1～))

R8.6～ セカンドストリート

リユースカップ式自販機



外側ケース



内側カップ

使用後に「内側カップのみ」回収・洗浄し、
リユースする自販機を市庁舎内に設置
(R7.9/29～実証実験中)

遺品整理

調査・検討中

高齢層リユース利用低迷、遺品整理増加
見込みの中、自治体関与の余地を検討中

<遺品整理 同行事例>



リユース: 5m³

家具類
: 椅子等の小型
繊維類等
: 古着・本
プラスチック
衣装ケース
※ 国外輸出時の容器用
陶器類

リサイクル: 5m³

家具類
: 大型木製品
プラスチック
古紙類
金属類

焼却: 25m³

(1,460kg)

繊維類
古着(リサイクル不可)
古紙類
写真等(リサイクル不可)
その他
食料品等



● 更なるリユース促進③・サステナブルファッション

YOKOHAMA
GO GREEN

好事例紹介

地球1個分で暮らそう STYLE 100 CITY OF YOKOHAMA

ヨコハマから提案する、
地球1個分の新しい暮らし方。
未来にむけてチャレンジしている
様々な人や活動を紹介。



● サステナブルファッション

YOKOHAMA
GO GREEN

不要な衣類をユニフォームへ

2027年横浜グリーンエキスポのスタッフユニフォーム
を不要になった衣類から作る取組



横浜市では、GREEN×EXPO 2027に向けて、市民や事業者の皆様と一緒に、捨てずに活かす循環型社会の実現に挑戦しています。
その第一歩は、身近な“衣類”から。衣類を大切に活用し、循環させることが、持続可能な都市への大きな一歩です。
あなたの衣類から、未来を変えてみませんか？



不要な衣類を回収中!



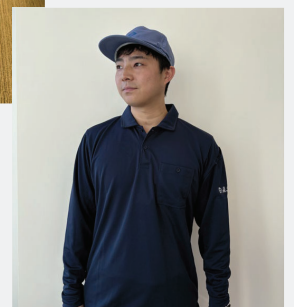
廃棄される衣類の削減

温室効果ガスの削減

身近な行動で未来を変える

作業着の単一素材化

ごみの収集職員が着用する作業服を
従来の再生PET繊維や綿との混紡品から
単一素材化し、リサイクル性を向上する取組
(快適性・安全性向上も検証中)



- ・ リユースやサステナブルファッションは、市民一人ひとりの選択によって成立する。
- ・ 自治体は市民にリユースを強制することはできないが、市民がリユースを選択しやすい環境を整えることはできる。

リユースの手間や負担の軽減	リユースの選択肢を見える化
・リユース家具事業 ・遺品整理に関する調査・検討	・分別冊子 ・粗大ごみ申込時のリユース案内 ・リユース事業者の紹介
市民と事業者の接点づくり	新たな参加機会や行動のきっかけづくり
・連携リユース事業者への案内（おいくら・ジモティー、セカンドストリート）	・リユースカップ式自販機 ・STYLE100 ・GREEN×EXPO2027ユニフォーム

横浜市は今後も、市民が自然に循環へ参加できる環境づくりを進めることで、リユースとサステナブルファッションを推進していきます。